



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: npb.jp



2019年7月19日
セントラル野球連盟
パシフィック野球連盟
スカパーJSAT株式会社

6月度「スカパー！ サヨナラ賞」受賞選手発表

セントラル、パシフィック両リーグが制定する月間「スカパー！サヨナラ賞」(協賛:スカパーJSAT株式会社)の6月度受賞選手が決定いたしました。受賞選手には、スカパーJSAT株式会社よりトロフィーと賞金30万円が贈られます。

～ セントラル・リーグ 受賞選手 ～

原口 文仁
(阪神タイガース)
初受賞

6月9日(日)阪神甲子園球場で行われた対北海道日本ハム3回戦、3対3で迎えた9回裏2死1、3塁の場面で、矢野監督は大病から復帰したばかりの原口選手を代打に指名。1塁走者が2塁へ進塁後、原口選手は、見事期待に応えセンター前へ安打を放ち勝負を決めた。

この試合、阪神は3回表に先制されるも4回裏に4番大山選手のタイムリーヒットで同点に追いつく。6回表、2点本塁打を浴びて再びリードを許すも、7回裏にマルテ選手の安打、梅野選手の二塁打をきっかけに2点を返しすぐさま同点に追いつき、試合は同点のまま9回裏へと進んでいった。そして運命の9回裏に最高の筋書きが用意されていた。先頭のマルテ選手、梅野選手が打ち取られ簡単に2死となるも、高山選手と北條選手が連打でつなぎ土壇場でチャンスを作り、代打原口選手が登場。復帰後5試合目のこの日、大病から復帰した原口選手の一打に甲子園球場は感動の渦に包まれた。

原口選手のサヨナラ安打は、2017年6月15日対埼玉西武戦(甲子園)以来4度目。

～ パシフィック・リーグ 受賞選手 ～

鈴木 大地
(千葉ロッテマリーンズ)
初受賞

鈴木選手は6月16日(日)ZOZOマリンスタジアムで行われた対中日ドラゴンズ2回戦、2対7で迎えた9回裏、4点を返し1点差に詰め寄った2死満塁の場面で、右前へ逆転のサヨナラ安打を放ち、8対7という劇的なサヨナラ勝利を収めた。

この試合、千葉ロッテは7回表までに0対5とリードを許す苦しい展開だったが、7回裏に鈴木選手のソロ本塁打で反撃開始。再び5点差の2対7で迎えた9回裏の先頭打者も鈴木選手だった。ここで放った自身プロ入り2度目となる2打席連続の本塁打が歴史的逆転勝利の始まりとなった。その後、千葉ロッテ打線は打者一巡の猛攻で、1点差とし迎えた2死満塁で打席には再び鈴木選手。球場の盛り上がりも最高潮の中で、フルカウントからの6球目、バットを真っ二つに折りながら振り抜いた打球は一、二塁間を抜け右前へ逆転のサヨナラ安打となった。

9回裏に5点差以上を逆転してのサヨナラ勝利はプロ野球史上9度目。今季千葉ロッテは、この試合まで3度のサヨナラ勝利があり、その3試合全てで鈴木選手がサヨナラ打を記録。個人シーズン3度のサヨナラ打は55年ぶり3人目の球団タイ記録となった。鈴木選手は6月1日の埼玉西武戦でのサヨナラ安打に続き今月2度目、自身通算では5度目のサヨナラ打であった。

月間「スカパー！サヨナラ賞」は、月間を通じて最もインパクトのあるサヨナラ打等を放った選手に贈られる賞として2012年に制定されました。スカパー！は、2006年シーズンから「プロ野球セ・パ両リーグ公式戦全試合、プレイボールからゲームセットまで放送」(※トップ&リレー、録画放送を含む)を掲げており、「試合終了最後の1球まで真剣勝負をお届けするスカパー！」から多くのファンに、プロ野球中継最大の魅力を伝えることができ、それがプロ野球界発展の一助となると考え、本賞へ協賛しています。また、同様の趣旨のもと2009年シーズンから、レギュラーシーズンを通じて最も劇的なサヨナラ本塁打、またはサヨナラ安打等を放った選手に贈られる賞として「スカパー！ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞」を制定しています。





(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー！サヨナラ賞】

2012年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	中村 紀洋 (DeNA)	田中 賢介 (日本ハム)
5月度	森野 将彦 (中日)	A.バルディリス (オリックス)
6月度	和田 一浩 (中日)	M.ホフパワー (日本ハム)
7月度	石原 慶幸 (広島)	柘田 慎太郎 (楽天)
8月度	阿部 慎之助 (巨人)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
9月度	新井 良太 (阪神)	松井 稼頭央 (楽天)

2015年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	平田 良介 (中日)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
5月度	福留 孝介 (阪神)	中川 大志 (楽天)
6月度	井端 弘和 (巨人)	吉田 裕太 (ロッテ)
7月度	藤井 淳志 (中日)	中村 剛也 (西武)
8月度	坂本 勇人 (巨人)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
9月度	中村 悠平 (ヤクルト)	B.レアード (日本ハム)

2013年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
5月度	畠山 和洋 (ヤクルト)	浅村 栄斗 (西武)
6月度	M. マートン (阪神)	高橋 信二 (オリックス)
7月度	丸 佳浩 (広島)	嶋 基宏 (楽天)
8月度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)
9月度	石原 慶幸 (広島)	片岡 治大 (西武)

2016年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	杉山 翔大 (中日)	吉村 裕基 (ソフトバンク)
5月度	坂本 勇人 (巨人)	井口 資仁 (ロッテ)
6月度	鈴木 誠也 (広島)	B.レアード (日本ハム)
7月度	筒香 嘉智 (DeNA)	B.レアード (日本ハム)
8月度	脇谷 亮太 (巨人)	森 友哉 (西武)
9月度	ギャレット (巨人)	細谷 圭 (ロッテ)

2014年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	B.エルドレッド (広島)	A.ジョーンズ (楽天)
5月度	梵 英心 (広島)	加藤 翔平 (ロッテ)
6月度	嶺井 博希 (DeNA)	今宮 健太 (ソフトバンク)
7月度	福留 孝介 (阪神)	斉藤 彰吾 (西武)
8月度	J. ロペス (巨人)	田村 龍弘 (ロッテ)
9月度	T. ブランコ (DeNA)	松井 稼頭央 (楽天)

2017年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	鶴久森 淳志 (ヤクルト)	聖澤 諒 (楽天)
5月度	荒木 貴裕 (ヤクルト)	駿太 (オリックス)
6月度	亀井 善行 (巨人)	福田 秀平 (ソフトバンク)
7月度	大松 尚逸 (ヤクルト)	J. アマダー (楽天)
8月度	宮崎 敏郎 (DeNA)	栗山 巧 (西武)
9、10月度	安部 友裕 (広島)	A.デスパイネ (ソフトバンク)



Nippon Professional Baseball Organization

Hp: npb.jp



(参考)過去の受賞選手

【月間スカパー!サヨナラ賞】

2018年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	下水流 昂 (広島)	森 友哉 (西武)
5月度	山下 幸輝 (DeNA)	清田 育宏 (ロッテ)
6月度	山田 哲人 (ヤクルト)	上林 誠知 (ソフトバンク)
7月度	下水流 昂 (広島)	山下 斐紹 (楽天)
8月度	鈴木 誠也 (広島)	Y.グラシアル (ソフトバンク)
9、10月度	上田 剛史 (ヤクルト)	中島 宏之 (オリックス)

2019年度		
受賞月	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
3、4月度	青木 宣親 (ヤクルト)	中田 翔 (日本ハム)
5月度	高山 俊 (阪神)	辰己 涼介 (楽天)
6月度		
7月度		
8月度		
9、10月度		

(参考)過去の年間大賞 受賞選手

【スカパー!ドラマティック・サヨナラ賞 年間大賞】

受賞年	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
2009年度	亀井 義行 (巨人)	井口 資仁 (ロッテ)
2010年度	天谷 宗一郎 (広島)	小久保 裕紀 (ソフトバンク)
2011年度	長野 久義 (巨人)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
2012年度	和田 一浩 (中日)	中田 翔 (日本ハム)
2013年度	長野 久義 (巨人)	浅村 栄斗 (西武)
2014年度	福留 孝介 (阪神)	松田 宣浩 (ソフトバンク)
2015年度	雄平 (ヤクルト)	柳田 悠岐 (ソフトバンク)
2016年度	鈴木 誠也 (広島)	吉村 裕基 (ソフトバンク)
2017年度	宮崎 敏郎 (DeNA)	栗山 巧 (西武)
2018年度	下水流 昂 (広島)	森 友哉 (西武)

